

令和7年度 長谷川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 長谷川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	3	33	33	26.2	28.9	学校	501
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	2	44.5	50.5	49.0	51.5	33.5	21.9	17.9	24.2	16.7	24.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	5	48.0	24.4	25.8	34.0	27.0	18.1	18.9	24.1	8.7	22.2
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	6	39.8	27.3	31.2	54.8	28.2	36.9	18.7	31.5	12.2	23.6
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	2	67.5	82.0	85.5	51.0
10月10日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	5	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	28.00	21.00	35.33	37.67	65.33	-	8.47	183.67	18.33	29.33
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	24.00	20.50	41.50	33.00	24.00	-	8.65	130.00	15.00	29.00
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 長谷川中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語> 全国と比較して、「書くこと」の領域において全国、大阪府を大きく下回る結果であった。

<数学> 全国と比較して、「数と式」の領域において全国、大阪府を大きく下回る結果であった。特に、「表現すること」「記述式」の領域では無回答率が高く、問題から読み取る力や数学的な言葉で説明することが身につけていないといえる。

<理科> 全国、大阪府を上回る平均正答率であり、基礎的な知識が身につけていると言える。また、それらを活用する思考力・判断力が一定程度身につけているといえる。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

・平均点は大阪府と比較して、理科の正答率が大阪府より5.5ポイント向上し、社会は-0.7ポイント、数学は-4.9ポイント差で、この3教科に強みがあることがわかった。

<課題>

・国語科において、指導要領の内容では情報の扱い方に関する事項、問題形式では記述式の問題に大きな課題がのこる結果であった。

・社会科において、地形図と中国(農業と工業)の資料の見方と、古代・近代の歴史的事変の理解が低い結果であった。

・数学科において、図形分野では大阪府の平均を上回ったが記述式には課題を残す結果となった。関数分野では無回答率は低いが大阪府の平均点を大幅に下回る結果であった。

・理科において、大阪府の平均よりも上回る結果であった。記述形式や計算問題については無回答率が高く、課題が残る結果であった。

・英語科において、19.7ポイント下回る結果であった。無回答率も高く英語力に大きな課題が残る結果であった。

○大阪市英語力調査(GTEC)において、

<成果>

・「聞くこと」は大阪市と比較して、28.2ポイント下回る結果であった。リスニングの能力に関しては評価できる。

<課題>

・「読むこと」は大阪市と比較して、50.0ポイント下回る結果であった。「書くこと」は大阪市と比較して、60.9ポイント下回る結果であった。「話すこと」は大阪市と比較して、47.4ポイント下回る結果であった。少しでも英語力が向上できるように、毎日の授業改善に取り組む。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、

<成果>

・50m走は全国と比較して、男子で0.47秒の僅差、女子で0.31秒上回る結果であった。

・握力は全国と比較して、男子で0.95kgの僅差、女子で0.85kg上回る結果であった。

・ハンドボール投げは全国と比較して、女子で2.17m上回る結果であった。

<課題>

・20mシャトルランは全国と比較して、男子で13.49回、女子で26.6回と体力面で大きな課題があらわれた結果であった。

【今後に向けて】

・国語では、授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取組として、考えたことを整理し、組み立てる活動を行う。

・数学では、特に「数と式」「関数」の領域における利用の課題で、数学的な考えの取り入れ方や表現することを、生徒同士で伝え合う活動を行う。

・理科では、生徒同士で考察を共有させたり、新たな考察の手立てとなるように教師から助言をする。実験・観察では、考察の妥当性を検討しあう中で、ICT機器等を使用し、生徒自身の言葉で説明ができるよう取り組む。

・体力向上については、授業の中で全国との差が大きい20mシャトルランや反復横跳びを高める運動を実施する。

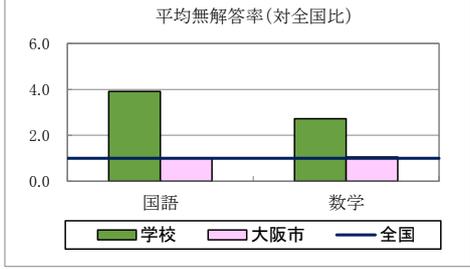
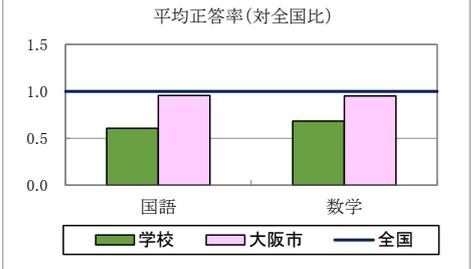
令和7年度 長谷川中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	33	33
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	26.2	28.9
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

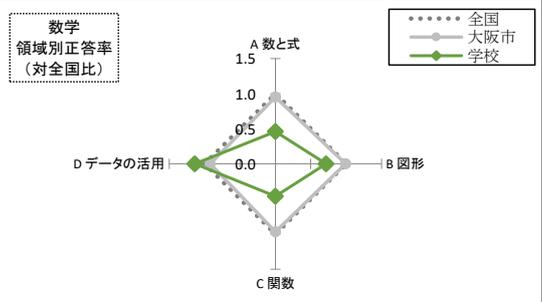
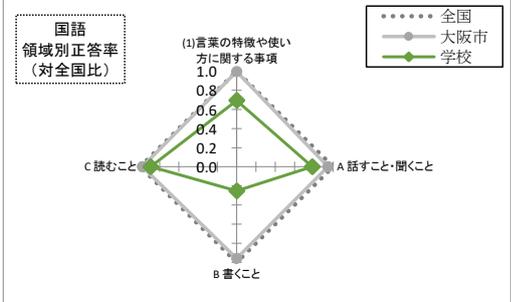
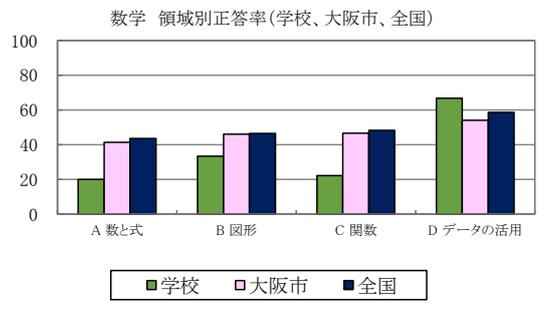
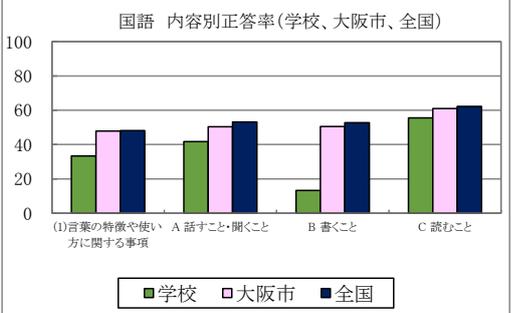


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	33.3	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	41.7	50.4	53.2
B 書くこと	5	13.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	55.6	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	20.0	41.4	43.5
B 図形	4	33.3	46.1	46.5
C 関数	3	22.2	46.6	48.2
D データの活用	3	66.7	54.0	58.6

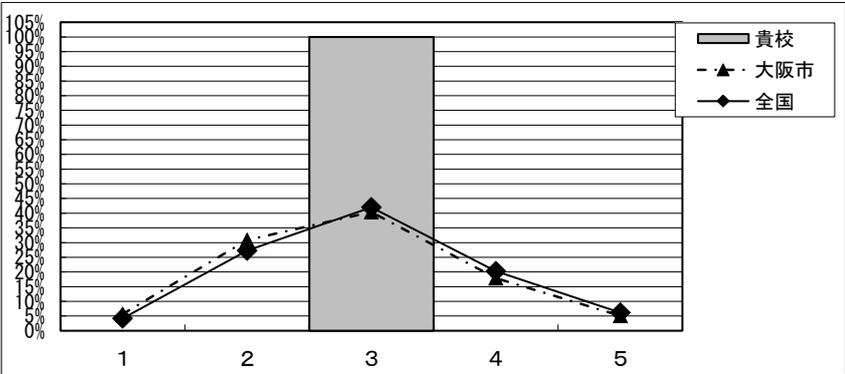
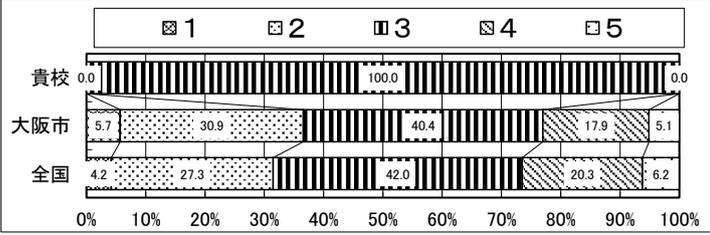


令和7年度 長谷川中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	501
大阪市	489
全国	503



令和7年度 長谷川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

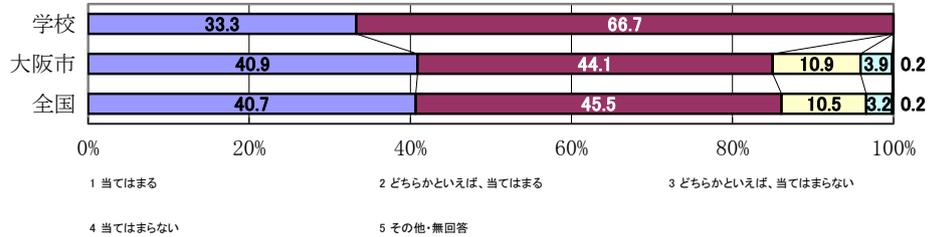
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

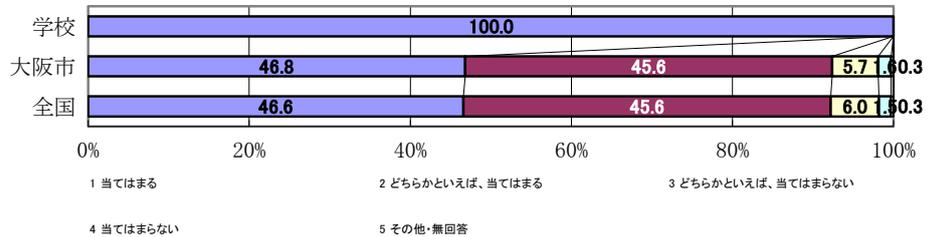
5

自分には、よいところがあると思いますか



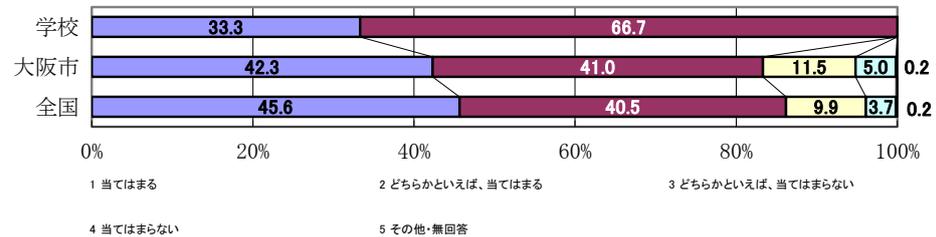
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



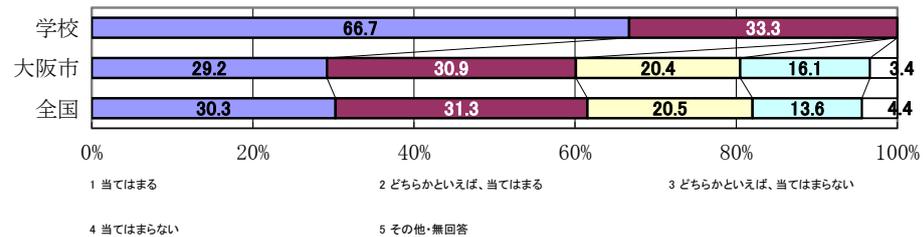
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



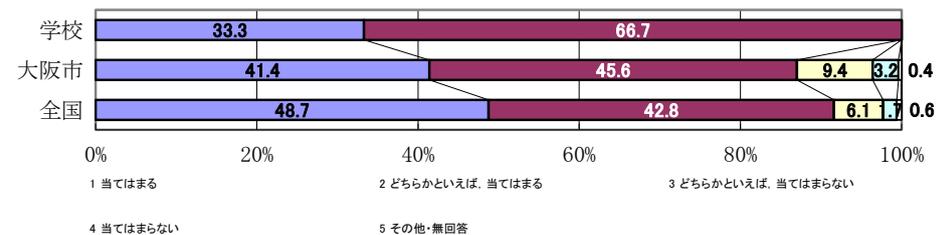
24

読書は好きですか



43

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



令和7年度 長谷川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

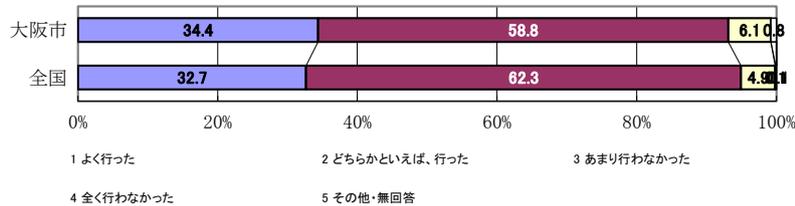
質問番号

質問事項

31

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

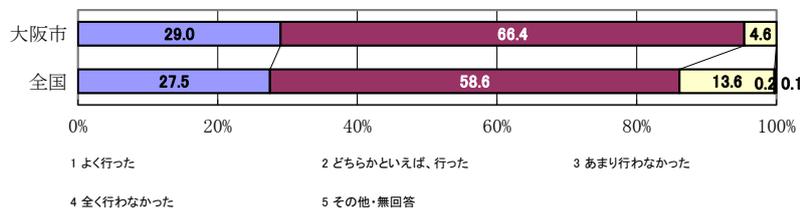
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



32

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

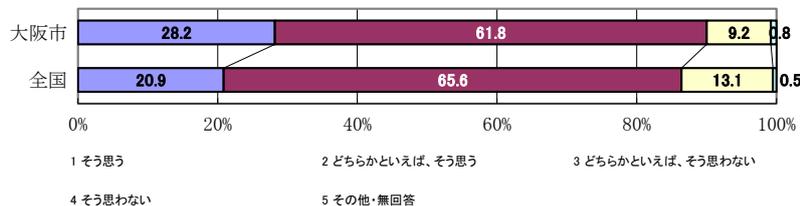
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



7

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思えますか

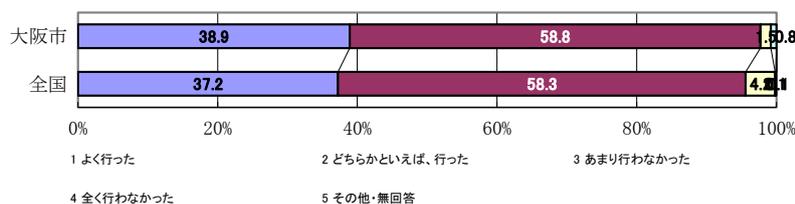
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



44

調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



39

調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

